

# 令和6年度全国学力・学習状況調査の結果および考察

大阪狭山市立狭山中学校

## 1. 昨年度の学力向上の取組みの成果と課題

昨年度、本校では学校図書館を活用した授業づくりを通して、子どもたちの思考力・判断力・表現力の育成に取り組んできました。国語や総合的な学習の時間のみならず、数学や音楽など、どの教科においても図書を活用した授業に取り組みました。具体的には、図書館資料とインターネットの情報を比較し、自分が伝えたいことを、根拠をもって表現する活動を取り入れてきました。その結果、令和5年度中学生チャレンジテストでは、「わからないことや知りたいことがあったとき、図書館資料やインターネットなどで調べている」の肯定的な回答の割合が大阪府を大きく上回りました。一方で、生成AI等の普及も見据え、社会に広がっている情報等が事実に基づいているかどうか正誤を判断して、情報を安全に活用するために必要な情報モラルを身に付けさせることが課題であると認識しています。

## 2. 教科における成果と課題について

### 【成果】

(国語)

○目的や意図に応じて、集めた情報を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる問題について、全国平均を上回りました。この強みを活かし、考えや意見をアウトプットする活動を取り入れ、学習を深めていきます。

○表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができているかどうかをみる問題について、全国平均を大幅に上回りました。

(数学)

○目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる問題について、全国平均を大幅に上回りました。

○統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる問題について、全国平均を大幅に上回りました。今後も引き続いて、式や図表を用いて、自分の考えを説明する場面を取り入れた授業を続けていきます。

### 【課題】

○国語では、「資料を用いて自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことができるかどうかをみる問題」について全国平均をわずかに下回りました。また、数学では、「複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかをみる問題」について、全国平均を下回りました。

○この結果から、子どもたちが自分の考えを伝え合う活動をどの教科においても引き続き取り組む必要があります。さらにその活動を効果的に進めるための基盤として、班や学級の集団作りを丁寧に進めていきます。具体的には、各々の教員が事項の課題について意識した授業を展開すること、そのために加配教員を中心に経験が少ない教員に向けたミニ研修を実施し、個々の教員の授業改善を図ります。

## 3. 児童生徒質問紙調査について

項目	肯定的割合 (%)		
	R5 本校	R6 本校	R6 全国
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	66.0	75.3	76.1
1、2年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか	71.6	74.4	68.8
1・2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	83.0	90.4	75.4
分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	—	83.1	78.6
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	97.4	91.3	95.7

○今年度より教育課程特例校として「地域未来の学習」に取り組んでいます。地域の方にゲストティーチャーとして、大阪狭山市への想いや取組みを紹介していただいたり、職業体験を受け入れていただいたりして、子どもたちが地域とのかかわりを感じられるようにすることで、自ら進んで地域や社会に関わろうとする態度を育てたいです。また、小中一貫校の取組みとして、これまで本校が取り組んできた異学年交流の実践をベースとして、小学生に向けて部活紹介の動画を英語で作ったり、校区内のこども園と連携して保育実習を実施したりすることで、地域の中で活躍する経験を積み、自尊感情の高揚に努めます。

○即興で自分の考えや気持ちを英語で伝え合う活動については、英語でのやりとりが苦手な生徒については、まず日本語で取り組み、その後英語に取り組むなど、個別の状況に応じた取組みを進めていきます。

○自分の考えや意見をまとめる活動については、まとめることに終始するのではなく、相手にわかりやすく伝える(アウトプット)活動にも積極的に取り組んでいきます。そのためには、子どもたちが日ごろから意見を言い合える関係が大切になることから、クラスや班でのグループワークだけでなく、学年集会や全校集会で自分の言葉で想いを伝えることができるよう取組みを丁寧に進め、集団作りを行っていきます。

○いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う子どもたちの割合が全国に比べて低いことから、すべての教育活動において人権教育の視点を持って取組みをすすめます。差別やいじめについては、知的側面に焦点をあてた指導だけでなく、差別やいじめを許さない雰囲気醸成されるよう、まずは教職員が一体となって早急に場の雰囲気づくりに取り組むことで、互いの違いを認め合い、仲間のことを思いやることのできる子どもを育てていきたいです。